

科目名	建築設計製図 I						
科目名(英)	ARCHITECTURAL DESIGN DRAWING						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	赤星 亜美		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	オーダー家具制作会社で インテリアコーディネーター として勤務		
対象学科・学年	インテリアデザイン科 1年						
授業概要	インテリアコーディネーター検定試験二次試験(実技)対策の導入として製図道具の使い方、線の描き方など製図の書き方を習得し、インテリア設計における図面の種類と表現方法の基本を習得する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				製図道具の使い方を理解し、使用することが出来る。	
	○	○				必要図面の種類と表現方法・内容が説明できる。	
	○	○				製図の基本に則して一般住宅の平面図、展開図を作図することができる。	
	○					家具、設備機器、什器類の標準的寸法が理解できている。	
	○	○				一般住宅における動線、家具、機器類の標準的配置を理解し、設計に反映できる。	
テキスト・教材 参考図書	「建築製図基本の基本」学芸出版社						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1・2	導入 製図用具の説明			用具は全て次回より使用可能な状態に準備完了しておくこと		
	3・4	線・数字・文字の練習			授業後、繰返しの練習を推奨する。 演習課題は次の授業までに終わらせ提出のこと		
	5・6	図面の種類と作図の基本練習・建具記号			授業後、繰返しの練習を推奨する。 演習課題は次の授業までに終わらせ提出のこと		
	7・8	住宅プランの基本(LDK、サニタリー、玄関、個室等)			授業後、繰返しの練習を推奨する。 演習課題は次の授業までに終わらせ提出のこと		
	9・10	住宅平面図(1)			授業後、繰返しの練習を推奨する。 演習課題は次の授業までに終わらせ提出のこと		
	11・12	住宅平面図(2)			授業後、繰返しの練習を推奨する。 演習課題は次の授業までに終わらせ提出のこと		
	13・14	展開図の書き方			授業後、繰返しの練習を推奨する。 演習課題は次の授業までに終わらせ提出のこと		
	15・16	展開図作図			授業後、繰返しの練習を推奨する。 演習課題は次の授業までに終わらせ提出のこと		
	17・18	建具・造作材等エレメント寸法・構造基本			授業後、繰返しの練習を推奨する。 演習課題は次の授業までに終わらせ提出のこと		
	19・20	建具・造作材等エレメント作図			授業後、繰返しの練習を推奨する。 演習課題は次の授業までに終わらせ提出のこと		
	21・22	設計課題: マンションインテリア設計 (導入・エスキス)			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	23・24	設計課題: マンションインテリア設計 (平面図)			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	25・26	設計課題: マンションインテリア設計 (平面図)			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
27・28	設計課題: マンションインテリア設計 (展開図、部分詳細)			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
29・30	設計課題: マンションインテリア設計(プレゼンテーション)			提出物あり。			
評価方法	定期試験は実施しない。 (1)演習課題提出物 (2)設計課題作品 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	演習課題提出物	○	○	○			50%
	設計課題作品	○	○	○			50%
履修上の注意	必要出席率は成績評価に関する規定(履修認定)第9条の通りとする。 演習課題を合わせて2つ以上未提出、または設計課題作品を未提出の者は不合格とする。						

科目名	建築計画 I						
科目名(英)	Architectural planning and design I						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	森行 美枝		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	建築設計事務所にて設計・監理業務担当		
対象学科・学年	インテリアデザイン科 1年						
授業概要	社会が変化する中、建築の担う役割は多様になっている。そのために過去、現在、未来、それぞれにどのような役割を建築が担ってきたか、あるいは担う可能性があるか、各自で思考を深める必要がある。例えば建築の歴史をふりかえり、現在の環境問題に建築がどのように貢献できるかを考察する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				建築計画とは何かを説明できる	
	○	○				既存の建築計画を調査・研究し、内容が説明できる。	
	○	○				戸建て住宅と集合住宅の特徴を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築計画(改訂版)、カラー版図説 建築の歴史 西洋・日本・近代 参考図書:建築ガイダンス初めて建築を学ぶ人のために、コンパクト建築設計資料集成、「新建築」等の建築雑誌						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	シラバス説明、建築計画とは、					
	2	住様式と住宅の変化				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	戸建て住宅 配置計画・平面の類型				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	戸建て住宅 各室の計画1				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	戸建て住宅 各室の計画2				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	戸建て住宅 各室の計画3・規模計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	戸建て住宅の計画1				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	戸建て住宅の計画2				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	中間テスト				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	集合住宅 団地計画				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	11	集合住宅 集合住宅の種類1				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	集合住宅 集合住宅の種類2				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	細部計画1				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	細部計画2				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
15	細部計画3				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60%以上取得すること (2)小テスト (3)宿題・レポート提出 提出状況 など次ぎの規準で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				80%
	小テスト	○	◎				10%
宿題・レポート	○	◎				10%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	建築環境工学						
科目名(英)	Architectural Environmental Engineering						
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	竹田 真志		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	インテリアデザイン科 1年						
授業概要	望ましい室内環境を形成するための物理的・生理的・心理的な知見を整理・統合し、建築計画に役立て、二級建築試験における学科Ⅱ(環境工学)の問題に対応出来るようになる						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				環境工学の要素(日射・光・色彩・空気・湿気・温熱・音)に関連する各図を読み解くことができる	
	○	○				環境工学の要素(日射・光・色彩・空気・湿気・温熱・音)の特徴と留意事項について説明できる	
	○	○				環境工学の要素(日射・光・色彩・空気・湿気・温熱・音)に関して計算式を用いて必要な数値を算出することができる	
	○	○				環境工学の要素(日射・光・色彩・空気・湿気・温熱・音)の課題点と対策について述べるることができる	
テキスト・教材 参考図書	建築環境工学 市ヶ谷出版 オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	建築環境工学の役割・太陽位置と日照・日影の関係					
	2	日影曲線・日影時間・日射量・日射調節				教科書予習する	
	3	光環境・測光量・照度計算・明視条件・採光				教科書予習する	
	4	採光による照度計算・採光計画・人工照明・照度計算(光束法)				教科書予習する	
	5	色彩の表し方・表色法・色彩の効果・色彩計画				教科書予習する	
	6	室内空気汚染物質と許容濃度・各汚染物質に伴う必要換気量の計算				教科書予習する	
	7	自然換気の種類と風力換気の計算・自然換気・温度差換気の計算・通風				教科書予習する	
	8	機械換気方式・換気計画・まとめ				教科書予習する	
評価方法	期末試験結果と授業内での理解度確認テストの結果による。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				80%
	小テスト	○	○				10%
	宿題・レポート	○	○				10%
履修上の注意	授業実施回数の2/3以上の出席を単位付与条件とする。						

科目名	建築設備						
科目名(英)	Building Facilities						
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	峯元 幹雄		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	総合メーカー建築技術担当。建材・都市開発・住宅部門に従事		
対象学科・学年	インテリアデザイン科 1年						
授業概要	建築に関する基礎的で包括的な専門知識として、また、建築環境・設備分野での技術者として必要な設備計画に関する基礎知識を修得する。						
授業形式	講義: ○	演習: -	実習: -	実技: -	※ 主たる方法: ○ その他: △		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				建築設備の役割・種類・構成を説明できる	
	○	○				空気調和方式の種類・特徴を説明できる	
	○	○				空気線図を読み解き、空調負荷について説明することができる	
	○	○				建築計画における省エネ手法を導き出せる	
	○	○				昇降機設備の種類と仕組みを理解する。	
テキスト・教材 参考図書	初学の建築講座 建築設備 第3版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	建築設備概要(1・1 建築設備とは)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	給排水衛生設備 2・1給排水衛生設備とは・2・2給水設備 2・3給湯設備			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	2・5排水・通気設備 2・6排水処理設備 2・7衛生器具設備 2・8消火設備			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	空気調和設備 3・1空気調和設備とは 3・2空気調和と室内環境 3・3空気の状態を知る			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	3・4空調負荷の考え方 3・5空気調和方式の種類 3・6熱源・熱搬送設備と機器部材 3・7換気・排煙設備			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	電気設備 4・1電気設備とは 4・2受変電・幹線設備			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	4・5照明・コンセント設備 4・6情報・通信設備搬送設備5・1・1エレベーター			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	まとめ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
評価方法	定期試験規定にもとづき、試験(筆記)を実施する。小テスト及び宿題レポートを数回実施する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト	○	◎				10%
	宿題・レポート	○	○				10%
履修上の注意	授業実施回数の2/3以上の出席を単位付与条件とする。						

科目名	建築一般構造 I						
科目名(英)	Introduction of Building Construction I						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	古賀 俊光		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	設計事務所にて建築デザインに従事		
対象学科・学年	インテリアデザイン科 1年						
授業概要	建築構造は、建物の成り立ちであり、建築物の各部と全体が、どのような材料を用いて、どのように形造られているかを学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				木材と木質材料について説明することが出来る。	
	○	○				木材の接合(仕口、継手)の名称と特徴について説明することが出来る。	
	○	○				木材の接合(釘、ボルト、金物)の名前と特徴について説明することが出来る。	
		○				壁倍率と壁量の算出をすることが出来る。	
	○					木造の各部の構造について説明することが出来る。	
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築構造 市ヶ谷出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	建築物の構成要素、構造の安定と不安定					
	2	建築物に作用する外力とその伝達メカニズム				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	木質構造の概要				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	木材と木質材料				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	木材の接合(仕口、継手)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	木材の接合(釘、ボルト、金物)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	軸組(1)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	軸組(2)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	壁倍率と壁量				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	小屋組・確認テスト				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	11	床組				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	枠組壁構法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	各部の構造(屋根、床、階段)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	各部の構造(壁、天井、開口部)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	15	構造 I の総まとめ				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 (3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				70%
	小テスト	◎	◎				20%
宿題・レポート	○	◎				10%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	建築材料						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	集路 正巳		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	総合建設会社にて、主に施工管理職として勤務		
対象学科・学年	インテリアデザイン科 1年						
授業概要	インテリアコーディネーター1次試験合格を視野に、身につけておくべき建築材料の基礎知識を学び建築の主要材料である木材、コンクリート、鋼材等を理解し、基本的性質などの知識習得を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				多種・多様な建築材料の種類を理解し、その材料の性質、特徴、使用部位等を説明できる。	
	○	○				常に新しい材料、新製品が生み出されている建築業界の現状を把握し情報収集ができる。	
	○	○				インテリアコーディネーター1次試験の材料分野の問題を正答に導くことができる。	
テキスト・教材 参考図書	インテリアコーディネーター(1次試験)合格教本・下巻、過去問題徹底研究・下巻 インテリアコーディネーター テーマ別 用語辞典 初学者の建築講座 建築材料(第二版) 市ヶ谷出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	・コマシラバス・授業の進め方の説明 ・建築材料の概要					
	2	木材の性質				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	木質系材料				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	鋼材／非鉄金属と金属系建築材料				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	コンクリート／無機質系ボード製品				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	機能材料／陶磁器製品				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	その他の陶磁器製品／小テスト①				授業内容に係る確認テストを実施するので復習しておくこと	
	8	ガラス／プラスチック建材				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	石材／左官材料				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	カーペットの種類／カーペットのテクスチャーと素材①(形状)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	カーペットのテクスチャーと素材②(繊維)／カーペットの施工				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	壁紙／塗料				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	畳／小テスト②				授業内容に係る確認テストを実施するので復習しておくこと	
	14	本試験問題を解いてみよう！(過去問題演習)				本試験を意識し、過去問題を解いてみましょう。	
15	建築材料の総まとめ				今期、学んだの材料学を振り返る。		
評価方法	(1) 定期試験(筆記)を実施する。(2) 小テスト(筆記)を2回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				70%
小テスト	○	◎				30%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	建築法規 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	徳田 美穂子		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	設計事務所にて、公共施設、共同住宅等の意匠設計に従事		
対象学科・学年	インテリアデザイン科 1年						
授業概要	建築物の設計、施工に必要不可欠である建築基準法と関係法令について条文の主旨、内容の理解を図る						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				建築に関する用語の定義を始めとする基本事項を説明することができる。	
	○	○				建築法規の成り立ちを学び、順守すべき内容を説明することができる。	
	○	○				建築法規に規定する事項を学び、順守すべき事項を説明することができる。	
	○	○				実際の設計等を想定して、各自の判断で法令順守のプランニングができる。	
テキスト・教材 参考図書	・建築関係法令集 法令編						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	建築基準法の概要				事前連絡の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	2	条文の読み方・法令の体系				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	3	用語の定義①				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	4	用語の定義②				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	5	用語の定義③				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	6	用語の定義④				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	7	確認テスト(筆記試験)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	8	面積の算定①				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	9	面積の算定②				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	10	高さの算定等				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	11	居室の採光①				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	12	居室の採光②				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	13	居室の換気				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	14	居室の天井高さ・床の高さ				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
15	確認テスト(筆記試験)				定期試験に向けた学習を徹底しておくこと。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する (2)授業の中で小テストを実施する 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				80%
	確認テスト	○	◎				20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	検定対策ゼミ I A (インテリアコーディネーター)				
科目名(英)					
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	赤星 亜美
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	オーダー家具制作会社でインテリアコーディネーターとして勤務
対象学科・学年	インテリアデザイン科 1年				
授業概要	インテリアコーディネーターの資格試験に必要な基礎知識を習得する。求められる幅広い知識の中で西洋史、色彩、家具、ウィンドウトリートメント、住宅設備、照明、消費者関連法規について主に学習する。またインテリアコーディネーターの視点での考え方も学び、一次試験合格を目標とする。				
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○	○			
	○	○			
	○	○			
	○	○			
テキスト・教材 参考図書	インテリアコーディネーター合格教本(上・下) インテリアコーディネーター過去問題徹底研究(上・下) インテリアコーディネーターテーマ別用語辞典				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	インテリア販売			教科書(合格教本上巻)の該当範囲(1章1 1~3)を事前に読んでおくこと
	2	インテリア販売			教科書(合格教本上巻)の該当範囲(1章2 1~5)を事前に読んでおくこと
	3	インテリア販売・日本の歴史			教科書(合格教本上巻)の該当範囲(1章2 6・7、2章1 1~2)を事前に読んでおくこと
	4	日本の歴史			教科書(合格教本上巻)の該当範囲(2章1 3~6)を事前に読んでおくこと
	5	日本の歴史			教科書(合格教本上巻)の該当範囲(2章1 7~10)を事前に読んでおくこと
	6	日本の歴史			教科書(合格教本上巻)の該当範囲(2章1 11~14)を事前に読んでおくこと
	7	西洋の歴史			教科書(合格教本上巻)の該当範囲(2章2 1~5)を事前に読んでおくこと
	8	西洋の歴史			教科書(合格教本上巻)の該当範囲(2章2 6~10)を事前に読んでおくこと
	9	西洋の歴史			教科書(合格教本上巻)の該当範囲(2章2 11~18)を事前に読んでおくこと
	10	インテリア計画			教科書(合格教本上巻)の該当範囲(3章1)を事前に読んでおくこと
	11	インテリア計画			教科書(合格教本上巻)の該当範囲(3章2)を事前に読んでおくこと
	12	インテリア計画			教科書(合格教本上巻)の該当範囲(3章3)を事前に読んでおくこと
	13	インテリア計画			教科書(合格教本上巻)の該当範囲(3章4)を事前に読んでおくこと
	14	色彩と造形			教科書(合格教本上巻)の該当範囲(4章2)を事前に読んでおくこと
	15	家具			教科書(合格教本上巻)の該当範囲(5章1、2 1~4)を事前に読んでおくこと
	16	家具			教科書(合格教本上巻)の該当範囲(5章2 5~6、5章3 1~4)を事前に読んでおくこと
	17	家具			教科書(合格教本上巻)の該当範囲(5章3 5~8)を事前に読んでおくこと
	18	家具			教科書(合格教本上巻)の該当範囲(5章4)を事前に読んでおくこと
	19	ウィンドウトリートメント			教科書(合格教本上巻)の該当範囲(6章1 1~6)を事前に読んでおくこと
	20	ウィンドウトリートメント			教科書(合格教本上巻)の該当範囲(6章1 7~8、6章2)を事前に読んでおくこと
21	各種エレメント			教科書(合格教本上巻)の該当範囲(7章1 1~4)を事前に読んでおくこと	

	22	各種エレメント	教科書(合格教本上巻)の該当範囲(7章2 1~3、7章3 1・2)を事前に読んでおくこと				
	23	各種エレメント	教科書(合格教本上巻)の該当範囲(7章3 3・4、7章4)を事前に読んでおくこと				
	24	照明	教科書(合格教本下巻)の該当範囲(12章1、12章2 1~2)を事前に読んでおくこと				
	25	照明	教科書(合格教本下巻)の該当範囲(12章2 3~7)を事前に読んでおくこと				
	26	照明	教科書(合格教本下巻)の該当範囲(12章3)を事前に読んでおくこと				
	27	消費者関連法規	教科書(合格教本下巻)の該当範囲(15章1)を事前に読んでおくこと				
	28	消費者関連法規	教科書(合格教本下巻)の該当範囲(15章1)を事前に読んでおくこと				
	29	消費者関連法規	教科書(合格教本下巻)の該当範囲(15章2)を事前に読んでおくこと				
	30	まとめ	授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
評価方法	(1)授業の中で小テストを数回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				70%
	小テスト	○	○				20%
	宿題・レポート		○				10%
履修上の注意							

科目名	CAD演習 I A						
科目名(英)	CAD exercise I A						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	西尾 英士		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	設計事務所、インテリア設計・デザイン、CG パースに従事		
対象学科・学年	インテリアデザイン科 1年						
授業概要	CADソフトのコマンド操作・各種設定・作図技術・印刷方法の習得 用紙サイズ・尺度・寸法など製図知識の習得 木造住宅・鉄筋コンクリート造の計画・各部分の名称・構造等の習得						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○	○			覚えたコマンドを効果的に活用して図面のトレースを行うことができる。	
	○	○				用紙サイズ、縮尺、寸法など製図のルールを理解して作図することができる。	
		○	○			木造住宅、鉄筋コンクリート造の書き方を理解出来る。	
		○	○			自ら用途に応じてJWCADの各種設定を行うことができる。	
	○	○			レイヤの設定、かき分けができる。		
テキスト・教材 参考図書	初めての建築CAD:学芸出版社						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1,2	基本操作(1)線分・消去・矩形・中心線・複線				授業で使用するソフトのインストールを行っていること。	
	3,4	基本操作(2)円・円弧・接円・接点・点				前回の復習を行うこと	
	5,6	基本操作(3)伸縮・コーナー・面取・分割				前回の復習を行うこと	
	7,8	基本操作(4)複写・移動・パラメトリック・多角形・測定				前回の復習を行うこと	
	9,10	作図課題1(木造住宅)①図枠作成・レイヤ設定・配置図作成				前回の復習を行うこと	
	11,12	作図課題1(木造住宅)②配置図作成				前回の復習を行うこと	
	13,14	作図課題1(木造住宅)③レイヤ設定・1階平面図作成				前回の復習を行うこと	
	15,16	作図課題1(木造住宅)④1階平面図作成・2階平面図作成				前回の復習を行うこと	
	17,18	作図課題1(木造住宅)⑤2階平面図作成				前回の復習を行うこと	
	19,20	作図課題1(木造住宅)⑥建築概要作成・印刷設定				前回の復習を行うこと	
	21,22	作図課題2(鉄筋コンクリート構造)①1階平面図作成・包絡コマンド				前回の復習を行うこと	
	23,24	作図課題2(鉄筋コンクリート構造)②1階平面図作成				前回の復習を行うこと	
	25,26	作図課題2(鉄筋コンクリート構造)③2階平面図作成				前回の復習を行うこと	
27,28	作図課題2(鉄筋コンクリート構造)④断面図作成				前回の復習を行うこと		
29,30	作図課題2(鉄筋コンクリート構造)⑤断面図作成・印刷設定				前回の復習を行うこと		
評価方法	(1)6つの課題を期限内に提出すること。(2)課題の完成度・正確性・丁寧さを評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題提出	○	○	○			30%
	作品評価	○	○	○			70%
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合は、単位を認めない。						

科目名	インテリアコーディネーションⅠ						
科目名(英)	interior coordination						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	赤星 亜美		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	オーダー家具制作会社で インテリアコーディネーター として勤務		
対象学科・学年	インテリアデザイン科 1年						
授業概要	インテリアコーディネート技術の習得において、色彩調和は基より歴史様式(スタイル)、エレメントの知識、空間スケールの感性育成の必要があり、かつ不易流行の仕組みを知ることが重要である。この授業では、これらの基本的な知識とともに実習を通して我が国の一般的住宅プランにおける時流に根差したコンテンポラリーなコーディネートセンス育成と初歩的手法の習得を目指す。また、表現手法としてデジタル、アナログ双方の技術習得を図る。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				インテリアコーディネートの根拠となる色彩論やスタイルについて、関連した用語の概要を説明することができる。	
	○	○				インテリアに関する画像情報を常に自ら収集しかつ系統別に整理しプランニングに活用することができる。	
	○	○				インテリアスタイルの分類を理解し、エレメント別に正確に関係づけることができる。	
	○	○				時流に即したエレメント、カラートレンドを選定してコーディネートボードを制作することができる。	
テキスト・教材 参考図書	参考図書:「世界で一番美しい建築デザインの教科書」イクスナレッジ、「インテリアトレンドビジョン」、「新インテリアカラーコーディネート『サ・ド・ア論』』トソー出版、Salone del Mobile.Milano、Heimtextil等 メッセ情報類						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	インテリアをコーディネートするための基礎知識①			配布プリントにて復習をすること		
	2	インテリアをコーディネートするための基礎知識②			配布プリントにて復習をすること 演習課題は次回授業までに提出すること		
	3	インテリアスタイル①			配布プリントにて復習をすること		
	4	インテリアスタイル②			配布プリントにて復習をすること		
	5	インテリアスタイル③			授業後、繰返しの練習を推奨する。 演習課題は期日厳守で提出のこと		
	6	インテリアスタイル④			演習課題は期日厳守で提出のこと		
	7	変化するライフスタイル			配布プリントにて復習をすること		
	8	トレンドレポート			配布プリントにて復習をすることを推奨する		
	9	インテリアをコーディネートするための基礎知識③			演習課題は期日厳守で提出のこと		
	10	インテリアをコーディネートするための基礎知識④			演習課題は期日厳守で提出のこと		
	11	インテリアをコーディネートするための基礎知識⑤			演習課題は期日厳守で提出のこと		
	12	プレゼンボード作成			演習課題は期日厳守で提出のこと		
	13	プレゼンボード作成			演習課題は期日厳守で提出のこと		
	14	プレゼンボード作成					
15	プレゼンテーション						
評価方法	(1)定期試験(筆記)は実施しない。 (2)宿題・レポート、演習作品、実習作品を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	演習課題提出	○	○				20%
	最終課題提出	○	○				70%
	期日厳守	○	○				10%
履修上の注意	必要出席率は成績評価に関する規定(履修認定)第9条の通りとする。 宿題・レポートを合わせて2つ以上未提出、または実習作品を未提出の者は不合格とする。						

科目名	デザイン演習						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	東 徹太郎		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	インテリアデザイン科 1年						
授業概要	自分の発想・考え方を形に表現する力を身につける。 鉛筆デッサンを中心にものの正しい見方を学ぶ パースの基本を学ぶ。(後期の設計製図・インテリアコーディネーター2次対策) 就職面接用のポートフォリオの素材となる作品を制作する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習: -	実技: -	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				自分の発想・考え方を形に表現できる。	
		○				鉛筆デッサンで正しくものの形を表現できる。	
		○				インテリアコーディネーター2次試験合格レベルのパース表現が出来る。	
		○				ポートフォリオの作品が制作できる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション試験に必要なインテリア製図 児島 敬子 産業能率大学出版部 ・新しいインテリアデザインの実技 村口映子 市ヶ谷出版社 ・やさしく学ぶインテリア製図 町田ひろ子インテリアコーディネーターアカデミー エクスナレッジ 						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション 課題説明 パースの定義 スケッチ			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	2	鉛筆デッサン① 様々な立方体のデッサン			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	3	鉛筆デッサン② 雑貨、家具、植物等デッサン			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	4	鉛筆デッサン③ インテリア、建物デッサン			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	5	投影図① アクソメトリック図の描き方①下描き			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	6	投影図② アクソメトリック図の描き方②仕上			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	7	投影図③ アイソメトリック図の描き方① 下描き			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	8	投影図④ アイソメトリック図の描き方②仕上			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	9	パース(透視図)① ベッドルーム 下描き			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	10	パース(透視図)② ベッドルーム インキング			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	11	パース(透視図)③ ベッドルーム インキング・着彩			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	12	パース(透視図)④ リビングルーム 下描き			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	13	パース(透視図)⑤ リビングルーム インキング			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	14	パース(透視図)⑥ リビングルーム インキング・着彩			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
15	課題の最終仕上・提出及び合評会			最後の授業まで課題を終わらせること。			
評価方法	(1)課題の提出 (2)課題の発表 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題提出	○	◎				50%
発表	○	◎				50%	
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を与えない						

科目名	色彩学						
科目名(英)	Color						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	櫛田 敦子		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	インテリアデザイン科 1年						
授業概要	色彩検定3級合格を目指すと同時に、色に関する知識と技能を、理論的、系統的に学んでいきます。色彩学の基本的な知識と、色を扱うテクニックを身につけ、カラーコーディネートを実践できることを目標としています。また、色の見え方の多様性とカラーユニバーサルデザインについて学びます。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習: -	実技: -	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				マンセル表色系の成り立ちと見方を説明できる。	
	○	○				色の三属性を挙げ、色を系統立てて説明することができる。	
	○	○				光の性質から、なぜ色が見えるのかを説明することができる。	
		○				混色を基に、目的の色を作ることができる。	
	○				色の感情効果や色のイメージから、色の組み合わせを提案することができる。		
テキスト・教材 参考図書	色彩検定 公式テキスト 3級、配布資料、画材 日本の色世界の色、日本の伝統色、色で巡る日本と世界、カラーイメージスケール						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	カラーコーディネートについて(導入)、色相環と補色残像				テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	マンセル色相環、三属性について				テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	マンセル表色系、光の性質				テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと 前回授業内容の復習をしておくこと	
	4	嗜好色と嫌悪色				テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと 前回授業内容の復習をしておくこと	
	5	色の心理効果				テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと 前回授業内容の復習をしておくこと	
	6	住空間と色				テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと 前回授業内容の復習をしておくこと	
	7	配色演習				テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	食べ物と色・色空間と色				テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと 前回授業内容の復習をしておくこと	
	9	色の共感覚				テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと 前回授業内容の復習をしておくこと	
	10	配色演習				テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	ファッションと肌色				テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと 前回授業内容の復習をしておくこと	
	12	色と記憶、注目度の高い色				テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	色の名前、カラーユニバーサルデザイン				テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと 前回授業内容の復習をしておくこと	
	14	過去問演習、解答と解説				検定範囲全体の復習をしておくこと	
15	総まとめテスト				検定範囲全体の復習をしておくこと		
評価方法	(1)講座最終日に総まとめテストを実施する (2)確認の小テスト (3)課題の提出 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	総まとめテスト	◎	○				70%
	小テスト(理解度確認テスト)	◎	○				15%
課題	○	○				15%	
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を与えない						

科目名	ビジネスマナー I						
科目名(英)	Business manner						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	津嘉山 佳子		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	専門学校にて、ビジネスマナー教員として勤務		
対象学科・学年	建築CAD科 1年						
授業概要	ビジネスシーンで、良い人間関係を築くための意思伝達スキルを学び、職場や社外でそれぞれの人間関係に応じた話し方、聞き方を身に付けることが仕事の成果につながります。また、来客対応、電話対応、冠婚葬祭など業務に必要なマナーや知識、技能を習得し、社会人としてのたしなみ、幅広いビジネスシーンに対応できる振る舞い方を身に付けます。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
					○	立居振る舞いを身に付ける	
	○	○				社会人としての言葉遣いを理解し、話すことができる。	
		○				ビジネス文書について理解し、作成することができる。	
		○				封筒の書き方・郵便の知識・冠婚葬祭について習得する	
				○	基本的なビジネスマナーを身に付け、振る舞うことができる。		
テキスト・教材 参考図書	・公益財団法人 全国経理教育協会 社会人常識マナー検定テキスト 2・3級 ・早稲田教育出版 サービス接遇検定3級 実問題集第39回～43回						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	社会人としての心構え— 社会と組織・仕事と成果			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	基本動作 立居振る舞い— 第一印象について 基本動作練習			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	言葉遣いの基本①— 話の仕方・話の聞き方 敬語の基本			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	言葉遣いの基本②— 間違いやすい敬語の解説			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	言葉遣いの基本③— よく使われる接遇用語・クッション言葉			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	サービス接遇検定対策— 必要とされる用件			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	サービス接遇検定対策— 従業要件・専門知識・専門用語			専門用語確認テストを実施するので、復習をしておく		
	8	サービス接遇検定対策— 専門用語確認テスト・一般知識			一般知識確認テストを実施するので、復習をしておく		
	9	サービス接遇検定対策— 一般知識確認テスト 用語について復習			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	交際業務1— ビジネス文書の種類・社外文書のスタイルについて			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	交際業務2— 社内文書のスタイルについて 文書作成に必要な用語			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	交際業務3— 封筒の書き方 縦書き・横書き 返信はがきの書き方			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	交際業務4— 郵便の知識について(適切な郵送方法が選択できる)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	交際業務5— 冠婚葬祭について			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	学習のまとめ— 今期学んだことの復習、理解を深める			定期試験に備えて、復習をしておくこと			
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				75%
	小テスト	○	○				15%
実技試験					○	10%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	GCB I						
科目名(英)	Global Citizen Basic I						
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	各クラス担任		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	建築工学科・建築CAD科・インテリアデザイン科・建築学科(昼)1年						
授業概要	社会人基礎力と志(使命感)、感謝や思いやり等(基本的な人間力)の要素をコンピテンシーと定め、GCBの中で学びます。GCB Iでは、組織の中で生きていくうえで重要なマナーと協力(協働)、「感謝と思いやり」について学びます。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				キャリア実現の鍵は専門能力および発揮できる力(人間力)であることを知る	
	○	○				「感謝心」が人間力の根底にあることを知る	
	○	○				人間力を高めるためのマナーの重要性に気づく	
テキスト・教材 参考図書	グローバルシティズンベーシック I テキスト						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	グローバルシティズンを目指そう グローバルシティズンとは			テキストを熟読しておく		
	2	「協働」の態度を持った学生生活 「働く」ことの幸せとは			テキストを熟読しておく		
	3	より良い人間関係の構築に向けて モラル・ルール・マナーの重要性			テキストを熟読しておく		
	4	マナーの本質 I 思いやり・気配りのカタチ			テキストを熟読しておく		
	5	マナーの本質 II 相手に敬意を表する・思いを伝える“あいさつ”			テキストを熟読しておく		
	6	グローバル・シティズンとしての日常			テキストを熟読しておく		
	7	グローバル・シティズンとしての目標			テキストを熟読しておく		
	8	グローバル・シティズンとしての「志」に向けて			テキストを熟読しておく		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)課題の提出 以上の内容にて判断し R評価(可、不可)で判断する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題の提出	○	○				100%
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする						

科目名	就職実務 I A						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	各クラス担任		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 ・ 建築学科(昼) 1年						
授業概要	就職活動に必要な基礎知識を備えた人材の育成 具体的には、就職活動における基礎的な振る舞いを身に着け、習慣化する						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					就職活動に必要な自己分析を行うことができる	
	○					基本的な面接対応ができる	
		○				メール対応など、就職活動に必要なコミュニケーション知識がある	
	○	○				企業研究の方法を知っている	
	○					学校求人を利用するための条件を知っている	
テキスト・教材 参考図書	学校支給のGCBテキスト 就職活動ガイドブック						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	就職活動における心構え / 働くということを考える 知る					
	2	就職活動における心構え / 自分が働く業界の形態や常識を知る					
	3	就職活動における心構え / 作品集の価値とは					
	4	就職活動における心構え / 作品集をイメージする					
	5	就職活動における心構え / 自分の作品集計画を見つめ直す					
	6	履歴書 / 自己分析 自己PR					
	7	履歴書 / 自己分析を履歴書としてまとめる					
	8	面接練習 / 面接の重要性 意味を知る					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)課題の提出 以上の内容にて判断し R評価(可、不可)で判断する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題の提出	○	○				100%
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする						

科目名	数学ゼミ I A						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	吉田 麻美		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	建築工学科・建築CAD科・インテリアデザイン科 1年						
授業概要	建築の各学科において必要とされる、基礎的な数学スキルの復習と習熟を目指す						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				正の数と負の数が含まれた基本的な数式問題が解ける	
	○	○				1次方程式の基本問題が解ける	
	○	○				比例と反比例の基本問題が解ける	
	○	○				図形に関する基本問題が解ける	
テキスト・教材 参考図書	オリジナル演習プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	【演習問題】 正の数と負の数、いろいろな計算(四則計算)				解答出来なかった問題は必ず復習・解答の上再提出すること。 また、理解できなかった問題は質問事項を記入して担当教員に提出すること。	
	2	【演習問題】 文字式の計算 1次方程式					
	3	【演習問題】 文字式の計算 1次方程式 1次方程式の利用					
	4	【演習問題】 比例と反比例					
	5	【演習問題】 比例と反比例 比例と反比例の利用					
	6	【演習問題】 平面図形					
	7	【演習問題】 空間図形					
	8	【演習問題】 総合演習 まとめ					
評価方法	(1)課題の提出 以上の内容にて判断し R評価(可、不可)で判断する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題の提出	○	○				100%
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする						

科目名	BIM 専攻 I A(選択)						
科目名(英)	Building Information Modeling I A						
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	道脇 力		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	建築工学科 ・ 建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 ・ 建築学科(昼) 1年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ARCHICADの基本的な操作の習得。 ・モデル作成、平面、立面、断面の基本図作成のワークフローの演習。 						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					覚えたコマンドを効果的に活用してモデリングを行うことができる。	
	○					モデルから基本図を生成し、図面化を行うことができる。	
	○					材質、レンダリングの設定を行い、パースを作成することができる。	
テキスト・教材 参考図書	ARCHICAD 22 Magic Vol. 1及びVol. 2(グラフィソフト提供トレーニングドキュメント)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	BIMの概要、モデル入力「メッシュ、柱、梁、壁」			テキストを見て予習を行うこと		
	2	モデル入力「ドア、窓、スラブ、階段、オブジェクト」			前回の復習を行うこと		
	3	モデル入力「2階、3階、屋上の作成、カーテンウォール」			前回の復習を行うこと		
	4	モデル入力「断面図、立面図、レンダリング、レイアウト」			前回の復習を行うこと		
	5	課題1:モデル再入力「1階、2階」			前回の復習を行うこと		
	6	課題1:モデル再入力「3階、屋上、レイアウト」			前回の復習を行うこと		
	7	環境モデル作成、材質設定、レンダリング設定			前回の復習を行うこと		
	8	プレゼンテーションボード作成「データ提出」			前回の復習を行うこと		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)発表・作品 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・作品		◎				50%
	課題提出		◎				50%
履修上の注意	出席が60%に満たない場合は、単位を認めない。						